

11月13日
神崎中学校区適正配置地域協議会視察

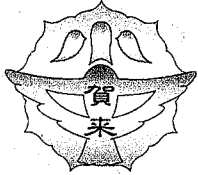
視察資料集

大分市立賀来小中学校

大分市立神崎小学校

平成26年度 学校要覧

大分市小中一貫教育校



賀来小中学校

西校舎(賀来中学校) 5～9年生 東校舎(賀来小学校) 1～4年生



〒870-0877 大分市大字賀来101番地の4
TEL 097-549-2560 FAX 097-549-2125

〒870-0877 大分市大字賀来68番地の2
TEL 097-549-2743 FAX 097-549-2045

児童生徒数・学級数 H26.5.1 現在

学年	前期			中期					後期				小計	総合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	7年	8年	9年	特別支援			
男子	53	44	49	52	66	53	14	331	65	51	41	4	161	492
女子	54	51	58	41	49	54	2	309	40	45	38	4	127	436
計	107	95	107	93	115	107	16	640	105	96	79	8	288	928
学級数	4	4	3	3	3	3	3	23	4	3	2	2	11	34

平成19年4月、賀来小学校と賀来中学校は、大分市初の小中一貫教育校「賀来小中学校」として開校しました。校長1名・教頭2名体制で、教職員全員が小学校、中学校それぞれの兼務発令を受け、賀来小中学校の職員として教育活動に取り組んでいます。

本校では、義務教育9年間に前期4年・中期3年・後期2年に区切り、一貫した独自のカリキュラムを編成し、賀来幼稚園との幼小連携も積極的に実践しながら、「豊かな人間性と自立する力の育成」を目指しています。

賀来小中学校の教育

学校教育目標

「豊かな人間性と自立する力の育成」

スローガン

来て楽しい やって楽しい あって楽しい賀来小中

教師の指導

<生活5原則>

1. 先手挨拶
2. 整理整頓
3. 無言清掃
4. 身だしなみ
5. 時間厳守

<学習5原則>

1. 二分前着席
2. 大きな声で挨拶
3. 忘れ物ゼロ
4. 授業に集中
5. 家庭学習

- ・ 正す前に分かる姿勢を指導の原点にできる教職員
- ・ 常に向上心を持ち、地域に信頼される教職員

児童生徒会の取り組み

今年度スローガン

SHINE -シャイン-

「一人ひとり、そして全ての児童生徒が輝ける学校へ」

- ・ 全校児童生徒一人ひとりの進歩
- ・ 学校全体の「成長」
- ・ 賀来小中生の「誇り」
- ・ 賀来小中学校の『輝き』

育友会の取り組み

執行部テーマ

「心をつなげて明るい学校」

- ・ 安全安心な学校生活をサポート
- ・ 小中一貫教育校として1～9年通しての活動を基本とする
- ・ 保護者・学校・地域の連携
- ・ 会員相互の親睦をはかる

※家庭では
“早寝・早起き・朝ごはん”の励行

賀来っ子魂：Do Our Best（全力） Hand In Hand（協力） Never Give Up（努力）

基本方針

「生きる力」を身につけるための教育

1. 全ての児童・生徒・教職員が、学校や地域での様々な教育活動に生き活きと参加する。
2. 小中一貫教育校としての自覚と責任を持ち、積極的に研究推進を図る。

経営の重点

- 9ヶ年を見通した教育活動の計画と実践
- 家庭・地域・学校の協働による学校づくり

具体的方針

- 学習部を中心とした小中一貫教育により、学力向上対策を策定・実施する。
- 学級・教科ごとの数値目標を設定し、その達成度を評価することにより授業力向上を目指す。
- 道徳教育と縦割り班活動を中心に、あらゆる教育活動の中で人権・同和教育を実践する。
- 教職員の共通認識の下、基本的生活習慣の確立と秩序・規律の保持に努める。
- 特別な支援を必要とする児童生徒への積極的な支援を行う。
- 子ども一人ひとりの能力・適性を大切にされた進路指導を行う。
- 将来を見通した進路指導計画を策定し、進路学習体験活動を実施する。
- 児童生徒会を中心に、地域行事への積極的取り組みや地域とのふれあい学習を充実させる。
- 小中一貫教育諸活動の発展的実践と地域コミュニティの活用を推進する。
- 情報発信（学校公開・各種通信・マメール・HP等）と情報収集（育友会活動・学校評議員会・学校評価等）に努める。

特色ある学習指導

9年間を見通した教科指導の充実

9年間を見通し、学習内容の系統性と各期の発達段階を踏まえた独自の教育課程を編成・実施しています。文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、小学校1年生から英語科を導入しています。



系統性を踏まえた学習指導



秋に公開研究発表会を開催



ALTと一緒に英語授業

意欲を高める学習活動の工夫

指導法の工夫・改善、発達の段階に応じた家庭学習、各種検定等児童生徒の学習意欲を高める工夫に取り組みます。

算数・数学・英語の力を確実につけていく授業形態のバリエーション

- 習熟度別コース授業 (5~9年)
一人一人の学びの実態に合わせ、よりきめ細かな授業を目指しての取り組み
- 課題別コース授業
単元の学習において、子どもたちの追及に合わせて課題を選択しコース別に学んでいく取り組み

国語及び英語の言語事項の理解と習熟を充分に図っていく指導法工夫・改善

- 「言語の時間」設定 5・6年週1時間
(漢字、文の組み立て、敬語等)
- 「英語の時間」設定 1・2年隔週、3・4年毎週1時間
・指導法担当+学級担任 (+ALT英語のみ月1~2時間程度)でT.T.授業等の実施による充実へ
- 9年間を見通した〈言葉の学習〉〈漢字習熟〉のプログラムづくり

9年間を見通した系統的な家庭での学習習慣づくり

- 各期ごとに家庭学習のてびきを作成し、発達の段階に応じて指導

- 前期…基本的な学習習慣を身につける
- 中期…自学、自習の仕方を身につける
- 後期…進路を見すえ、学習内容の充実をはかる



[家庭学習のてびき]

「賀来小中学力向上プラン」により、国語・算数・英語の基礎学力の充実

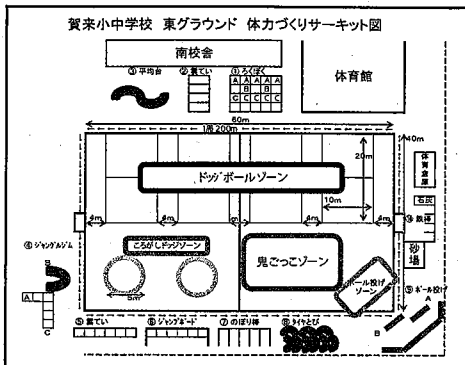
- 各オリンピックを実施
 - ・漢字オリンピック
 - ・計算オリンピック
 - ・英単オリンピック
- 各検定試験に参加
 - ・漢字検定等



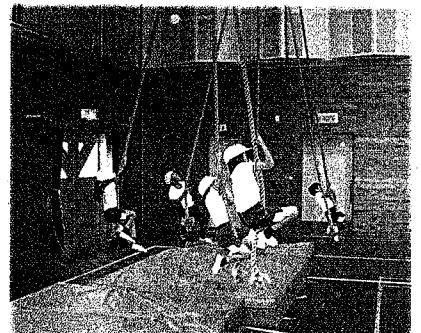
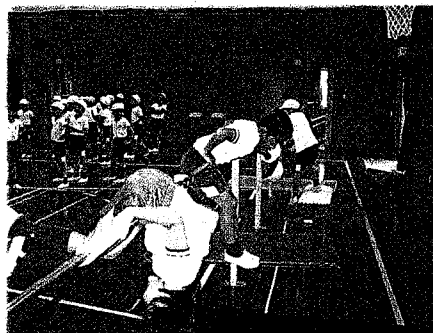
たくましい体の育成

データにもとづいた体づくりの工夫

体力テストの実施・分析をもとに体力向上プランを作成し、9年間を見通した体づくりの工夫を行っています。



体づくりサーキット図



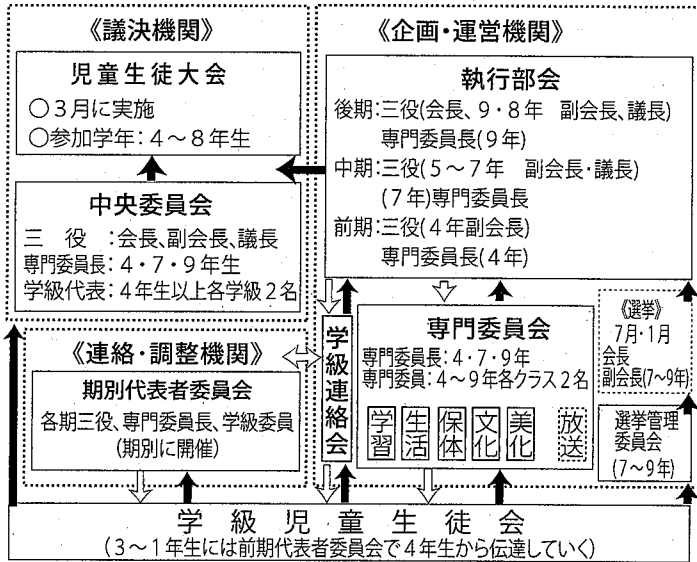
器械運動強化月間の設定

心の教育の推進

児童生徒会活動を通して

9年生が中心となって各期の特色を生かし、学校生活の充実を図っています。

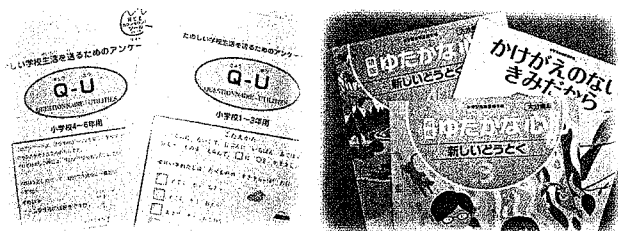
26年度 児童生徒会組織表



26年度 児童生徒会 年間活動計画

学期	月	前期(1～4年)	中期(5～7年)	後期8・9年	(活動の中心)
一学期	4	お見知り遠足・対面式 縦割り班結成式			9年 運営委員
	5	『豊賀祭』全校ダンス練習・全校団体競技 市総体選手激励会(7～9年生) 役員選挙(7～9年生)			9年・保体 9年 9年
	6	除草作業(夏休み)縦割り班で活動			美化委員会
	7				
二学期	9	賀来神社相撲大会1～7年希望者 清掃活動			運営委員
	10	市新人戦選手激励会(7～9年生) 努力遠足(1.2.3.4.5.6年生)			9年 6年
	11	文化祭 縦割り班での共同製作・全校合唱			文化委員会
	12	クリーンアップ作戦 縦割り班で清掃活動			美化委員会
三学期	1	カルタ大会	百人一首大会	役員選挙(6～8年生)	8年 8年
	2	9年生を送る会・縦割り班解散式			8年
	3	お別れ遠足(1～6年生)			8年
		児童生徒大会(4～8年生) 前期修了式 立志式			8年 4年・7年

Q-U検査や道徳授業を通して



Q-U検査を活用した学級づくり 道徳授業の充実による心育で

各行事での活動のようす

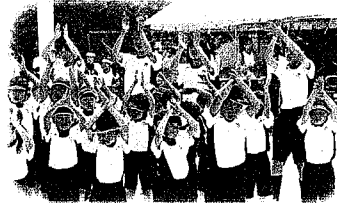
【入学式】



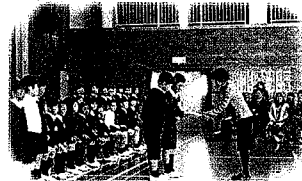
【お見知り遠足】



【豊賀祭(体育大会)】



前期修了式(4年)



【立志式】(7年)

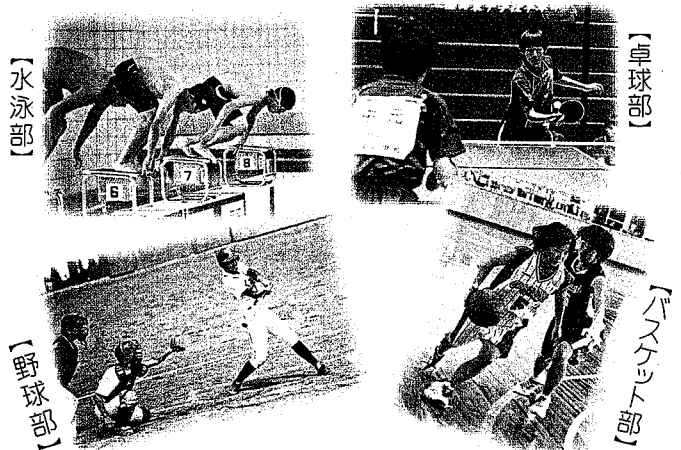


活発で楽しい部活動 (7・8・9年生)

部 活 動 名	
陸上競技部 (男女)	水泳部 (男女)
軟式野球部 (男)	空手道部 (男女)
バレーボール部 (女)	テニス部 (男女)
バスケットボール部 (女)	合唱部 (男女)
卓球部 (男女)	美術部 (男女)
サッカー部 (男)	

※小学校教員も指導・顧問となって部活動に参加

6年生による部活動の見学・体験活動を実施



【水泳部】

【卓球部】

【野球部】

【バスケット部】

《年間行事計画》 26年度

4月

- ・始業式
- ・入学式
- ・国・県学力検査
- ・お見知り遠足
- ・家庭訪問

5月

- ・内科検診
- ・豊賀祭(体育大会)

6月

- ・プール開き
- ・中体連市総体
- ・期末テスト

7・8月

- ・児童生徒会役員選挙
- ・8年生職場体験活動
- ・終業式
- ・夏季休業
- ・県中学校体育大会
- ・親子清掃作業
- ・サマースタディ
- ・7年生自然の家

9月

- ・始業式
- ・賀来神社奉納相撲大会
- ・5年生自然の家
- ・器械運動強化月間

10月

- ・6年生修学旅行
- ・中体連新人戦
- ・努力遠足
- ・就学時健康診断
- ・文化祭
- ・市駅伝競走大会

11月

- ・公開研究発表会
- ・8年生修学旅行
- ・かた屋消防団活動

12月

- ・人権集会
- ・福祉体験活動
- ・クリーンアップ作戦
- ・終業式
- ・冬季休業
- ・9年生三者面談

1月

- ・始業式
- ・もちつき大会
- ・カルタ・百人一首大会
- ・児童生徒会役員選挙
- ・市学力検査

2月

- ・私立高校入試
- ・県立高校推薦入試
- ・6年生職場体験活動
- ・新入生入学説明会

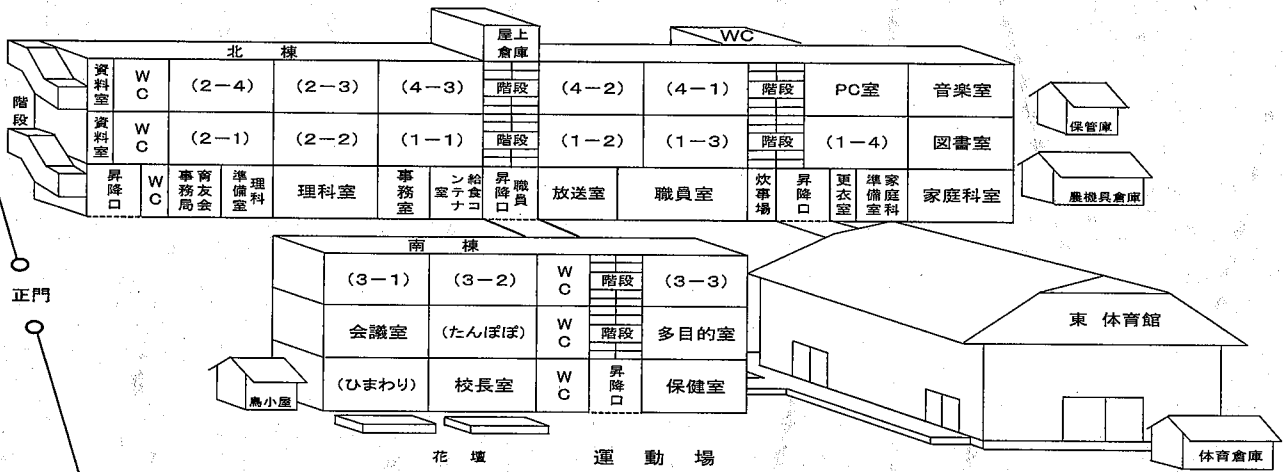
3月

- ・9年生を送る会
- ・卒業式
- ・公立高校入試
- ・お別れ遠足
- ・立志式(7年生)
- ・前期修了式(4年生)
- ・児童生徒大会
- ・修了式
- ・年度末休業
- ・離任式

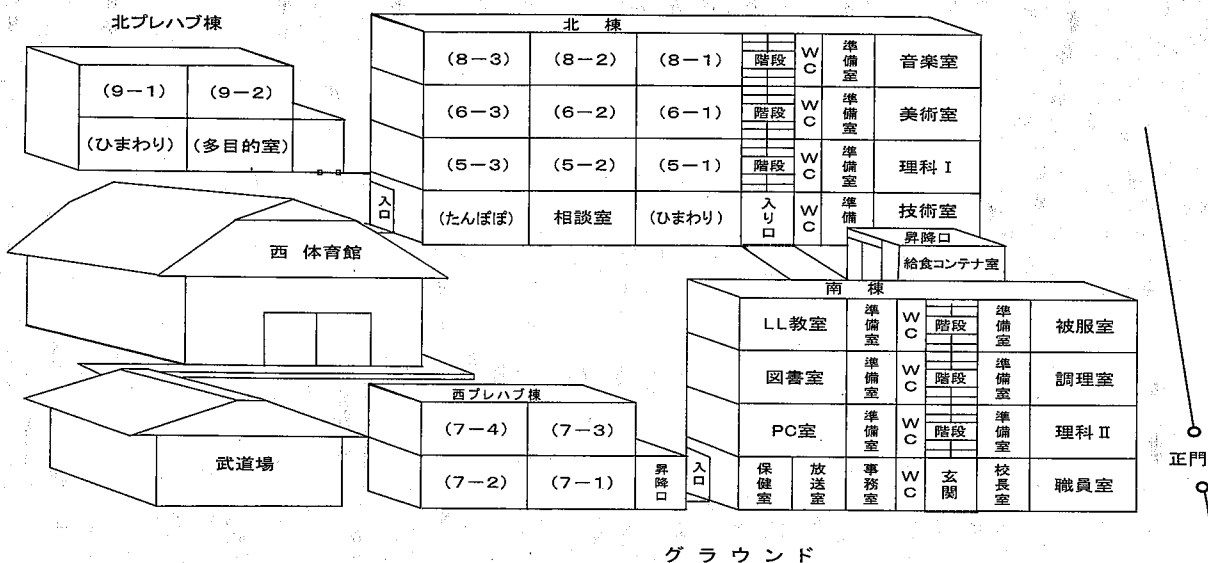
その他の行事

- ・見学遠足(1~5年)
- ・避難訓練
- ・学年・学級PTA
- ・進路PTA
- ・オープンスクール
- ・育友会総会
- ・ペットボトルキャップ回収
- ・空き缶回収
- ・あいさつ運動
- ・書き損じハガキ回収
- ・情報モラル講座

東校舎 教室配置図



西校舎 教室配置図



《年間授業時数》

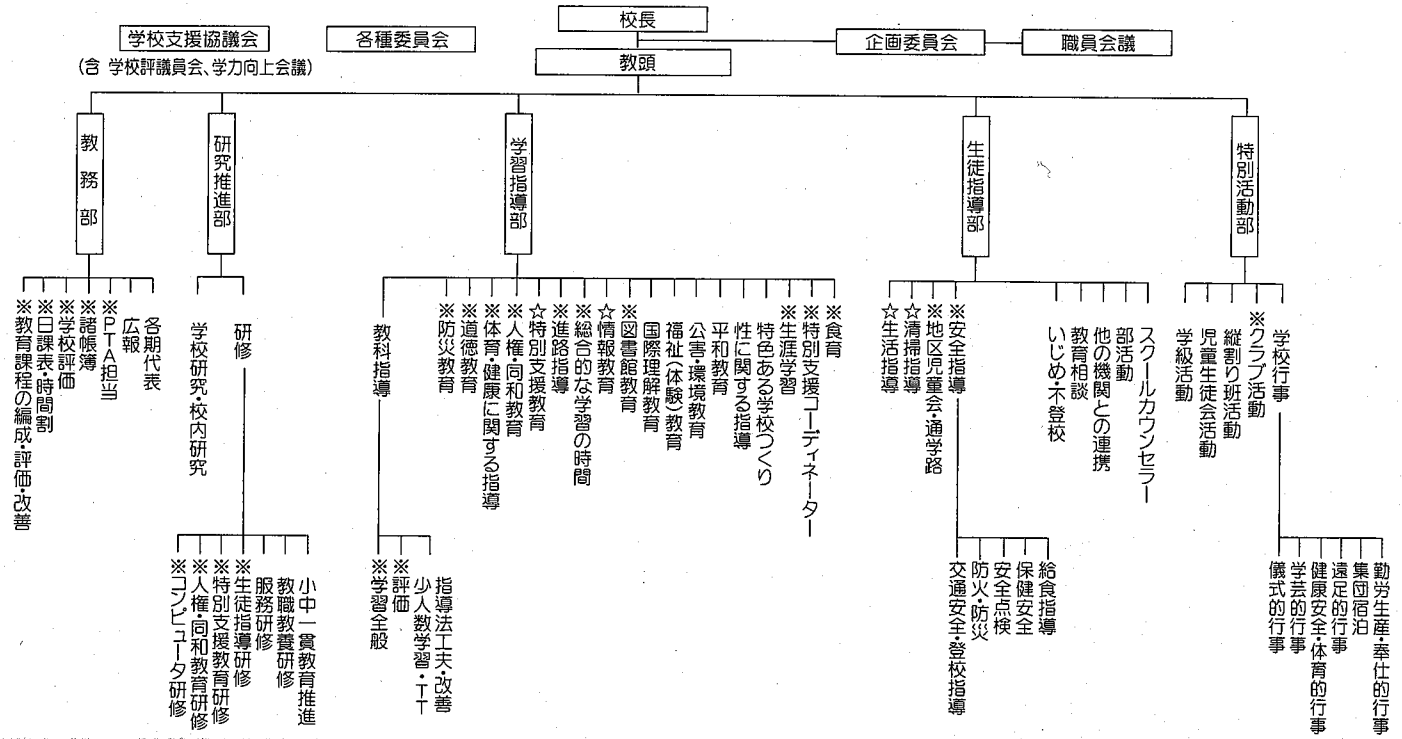
	前期				中期			後期	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
国語	306	315	245	245	175	175	140	140	105
社会			70	90	100	105	105	105	140
算数・数学	136	175	175	175	175	175	140	105	140
理科			90	105	105	105	105	140	140
生活	102	105							
音楽	68	70	60	60	50	50	45	35	35
図画工作・美術	68	70	60	60	50	50	45	35	35
家庭・技術・家庭					60	55	70	70	35
体育・保健体育	102	105	105	105	90	90	105	105	105
英語	20	20	40	40	50	50	140	140	140
道徳	34	35	35	35	35	35	35	35	35
特別活動	34	35	35	35	35	35	35	35	35
総合的な学習の時間			35	35	65	65	50	70	70
総時間数	855	915	950	985	990	990	1015	1015	1015

東西校舎別校時表

前期・中期(1~6年)	登校	8:00
8:00~	朝の活動	8:00~
8:20~	朝の会	8:20~
8:40~	1校時	8:35~
9:35~	2校時	9:35~
10:20~	中休み	
10:40~	3校時	10:35~
11:35~	4校時	11:35~
12:20~	給食	12:25~
13:00~	昼休み	12:55~
13:45~	清掃	13:40~
14:05~	5校時	14:00~
15:00~	6校時	15:00~
15:45~	帰りの会	15:55~
16:10	下校	16:30

平成26年度 校務分掌

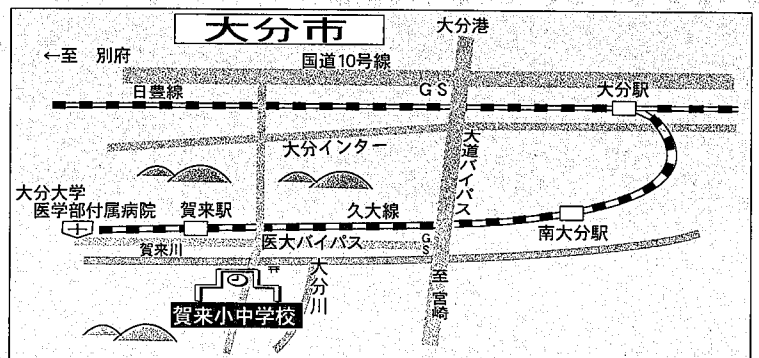
※は、6年生以下と7年生以上で分けて決定していく
☆は、後・中期(西校舎)と前期(東校舎)で分けて決定していく



《本校へのアクセス》

《最寄りの駅からの経路》

JR 久大線・・・大分駅～賀来駅→徒歩 6分
大分バス・・・大学病院行き乗車→
桑原上下車→徒歩 5分



大分市立神崎小学校

1. 校区及び通学状況

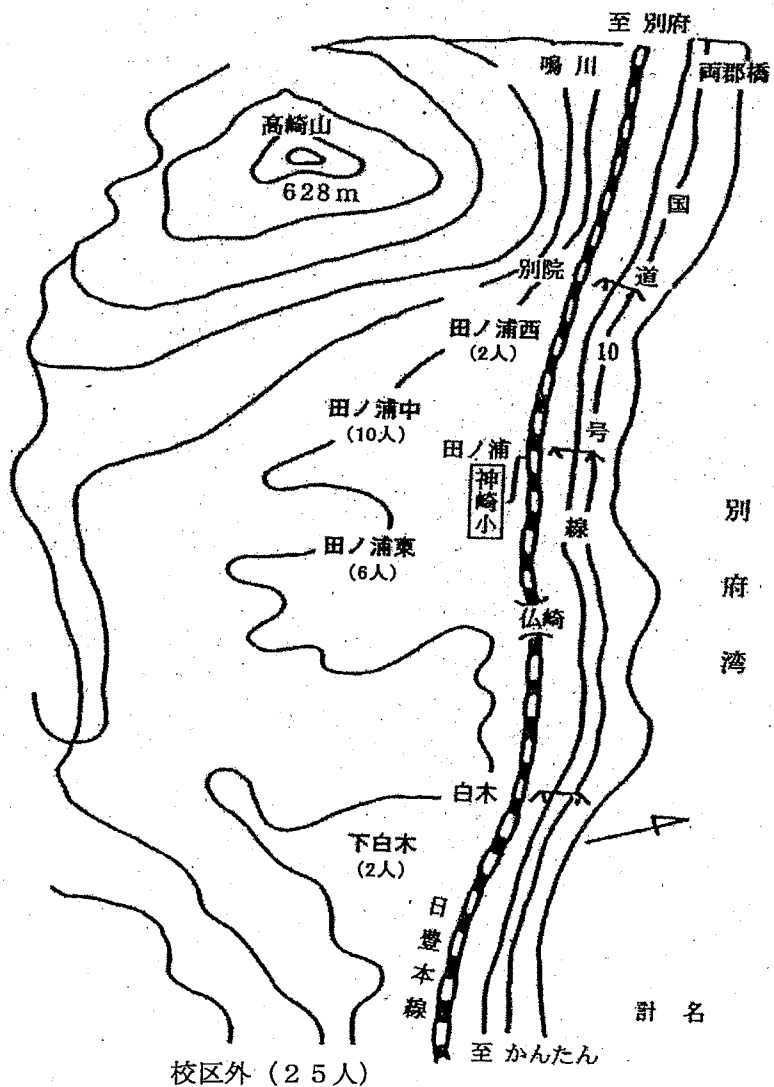
(1) 校区の状況

① 児童数の町内別内訳

町名		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
田ノ浦	東	1	1	0	1	3	0	6
	中	1	2	1	0	3	3	10
	西	1	1	0	0	0	0	2
下白木		0	0	0	1	0	1	2
校区外		6	7	1	2	4	5	25
合計		9	11	2	4	10	9	45

② 校区見取図

- 【校区外】(25名)
- 明野北 1名
 - 明野高尾 1名
 - 芦崎 1名
 - 生石 1名
 - 王子西 2名
 - 森 2名
 - 葛城 2名
 - 上白木 2名
 - 寿町 1名
 - 桜ヶ丘 1名
 - 下八幡 1名
 - 城東町 1名
 - 城原 1名
 - 豊 1名
 - 南春日 1名
 - 宮苑 2名
 - 御幸町 1名
 - 森町 2名
 - 東浜 1名



2. 小規模特認校「神崎小」の取り組み状況

1 大分市小規模特認校として

(1) 制度導入の理由

- ・市街地に居住する児童生徒は直接自然に接する機会が少ない。
- ・都市化に伴う生活環境の変化により心身の健康増進が求められている。
- ・郊外小規模校に見られる複式学級など不安定な学級編成を解消する。
- ・地域の過疎化にある程度の歯止めをかけ地域の活性化を図る。



制度導入の目的 ①複式など不安定な学級編成の解消
②地域活性化

(2) 制度導入の経緯（大分市教育委員会）

- ・平成8年12月 先進地視察（札幌市内の5小中学校等）、基本原案作成
- ・平成9年1～2月 対象予定校と市教委間の協議（PTA役員や地区自治委員も含む）
- ・平成9年3月 意見集約、対象校の決定
- ・平成9年6月 議会説明、教育委員会へ提案・審議、対象校及び要綱の決定
趣旨啓発（市報やマスコミ等活用して）、校長会・教頭会に提示
- ・平成9年7～8月 入学希望調査及び調査結果まとめ・分析
- ・平成9年11月 全学校へ案内文書配布
- ・平成9年12月 募集案内（市報及び新聞等報道依頼）
- ・平成10年2月 入学児童の決定
- ・平成10年4月 特認校スタート

(3) 神崎小学校児童数の変化

年度	特認利用数	全校児童数	年度	特認利用数	全校児童数
平成1年		56	14	6 (19%)	31
2		50	15	2 (7%)	28
3		55	16	4 (11%)	37
4		41	17	5 (12%)	43
5		38	18	6 (12%)	49
6		36	19	6 (14%)	42
7		41	20	9 (23%)	40
8		36	21	16 (35%)	46
9		30	22	16 (37%)	43
10	5 (16%)	31	23	16 (40%)	40
11	6 (22%)	27	24	16 (43%)	37
12	7 (39%)	18	25	26 (55%)	47
13	10 (40%)	25	26	25 (55%)	45

2 特認校制度利用者（校區別）

- ・大分西中、王子中校区居住者が多い。
- ・大在中、大東中、明野中、城東中、滝尾中、南大分中、賀来小中校区から通学する子どももいる。

3 そこで、どんな教育活動を提供すればよいか

(1) 一人一人が主役になれる学習活動の展開

(2) 地域の教育資源を最大限に活用した特色ある魅力的な各種体験学習プログラムの推進

- ・関わり合って学ぶことの楽しさを体験させる。
- ・協力することで大きな達成感を味わうことができることを実感させる。
- ・心育て
- ・自尊感情の育成

(3) 全職員による一人一人に目が行き届いたきめ細かな支援

(4) あきらめずに最後までやりとげようとする強い心の育成

4 保護者を育てる

(1) 校区外保護者へ地域コミュニティーへの参画体験を

子どもの教育に非常に高い関心をもっている保護者が多いことを利用する。

①活動場面場所の提供

- ・神崎校区公民館での活動

「神崎っ子ふれあい学びの広場」開設（平成25年度）

校区外保護者による放課後子どもクラブの立ち上げと活動開始

（現在、毎月第2土曜日と毎週金曜日放課後）

- ・下白木自治会に所属しての活動（下白木地区在住児童は2名で少数のため）

神崎校区を第2の故郷として地域行事等に非常に積極的に参加する親子 区長から感謝の声あり。

※校区外保護者のパワーにひっぱられる形でいろいろな活動へ参加する地元保護者が増えている。

ある意味、地域活性化に十分貢献している。特認制度導入目的②は達成しつつあるといえる。

(2) PTA活動

- ・専門部制を廃止し、一つの活動を数名のメンバーで担当するチーム運営システムへ変更
必ず1回以上は人前になることになる。（企画のリーダーになる）
- ・少人数ゆえに役員等になる可能性が非常に高い。

(3) 神崎小学校の未来を考える会（HPあり）

- ・保護者有志の会 地元保護者がリーダーとなって活動している。
- ・校区外保護者も活動に加わっている。
- ・田ノ浦ビーチ等で開催される各種イベントに積極的に参加し学校PRを行っている。

(4) ボランティア活動（PTA活動とは別個に）

- ・校地内環境整備活動
花壇の整備、草取り、教室や廊下等への花飾り
- ・他団体と連携した活動
県や市主催各種イベントの手伝い、田ノ浦ビーチライフセーバーやNPO法人等と連携した活動
- ・実習を伴う授業のアシスト

5 特認制度利用者の声（保護者から直接聞いた話）

- ・体験活動が多いので、自然とたわむれたり等、小学生の時代にぜひ経験させてやりたいと思うことがここなら実現できる。
- ・体験学習やイベントが多いので親子で楽しめる機会が多い。
- ・小集団だからこそ、子どもや親が前面に出る機会が多くなり、活躍の場が増え、自信がついた。
- ・人数が少ないので、周囲からの刺激が少なく、子どもが落ち着いた。
- ・少人数なので、友だちとかかわり合いやすく、遊びでも自分から「入れて!」と言えるようになってきた。
- ・遠いのに、文句を言わず毎日休まずに通う。
- ・クラス替えがなく6年間を過ごすことになるので子どもなりに折り合いをつける方法を学ぶようだ。苦手だった友だちとのかかわり方を学ぶチャンスを得て表情が明るくなった。
- ・縦割り班での活動が多いので子どもが優しくなった。
- ・特認制度利用経験者として、幼稚園や保育所に在籍中の親に神崎小のよさを話している。自信をもって神崎小への入学を勧めている。

〔 実際に、本校在籍保護者の勧めで入学してくる児童が多い。

また、本校のオープンスクールの日を幼稚園や保育園へ行って宣伝してくれる保護者もいる。

平成26年度第1回学校公開（6/5開催）参加者38名中、半数が校区外在住の保護者だった。

- ・保護者として地元を離れるリスクは十分承知しているが、それを上回るメリットを見出している。

〔 途中で地元校へ帰りたいとか他校へ転出したいという相談は一切ない。

ただし、転勤や離婚等に伴う生活環境の変化による転出は含まない。

不登校ゼロ。

学校を休みがちな児童も皆無である。

- ・校区外からたくさん来てくれるようになって、いい意味での刺激が増えたと感じる地元保護者や地域住民からの声がある。

6 課題

- ・特認制度利用者数の増加

学校を単独で存続させる条件を満たすことの困難さがある。

（1学年あたり最大15名確保、最低でも複式学級を解消すること）

➡ 現状では、特認制度導入目的①は未達成

- ・学校行事とPTA活動及び各種体験学習等の見直し

- ・慣例墨守からの脱却

- ・保護者間の問題 内と外の開かれた関係性の確立